

2021 年度  
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾  
麻生公務員専門学校福岡校

## 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生公務員専門学校福岡校の2021年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2022年 1月31日

校 長 竹口 伸一郎

自己点検・評価責任者

校長代行 簗原 睦

### 目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像） .....	- 3 -
II	重点項目 .....	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価 .....	- 6 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像 .....	- 6 -
	基準 2 学校運営 .....	- 7 -
	基準 3 教育活動 .....	- 9 -
	基準 4 学修成果 .....	- 14 -
	基準 5 学生支援 .....	- 15 -
	基準 6 教育環境 .....	- 16 -
	基準 7 学生募集 .....	- 18 -
	基準 8 財務 .....	- 19 -
	基準 9 法令遵守 .....	- 20 -
	基準 10 内部質保証 .....	- 21 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献 .....	- 22 -
	基準 12 国際交流 .....	- 23 -

### 評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

# I 教育理念・教育目標（人材育成像）

## 【教育理念】

公務員としてふさわしい人材の育成を通じて、国家・地域社会の発展に貢献し、人々の幸福に寄与する。

## 【教育目標・育成人材像】

### 1. 公務員総合科

- (1) 幅広い教養に基づく広い視野、柔軟な発想を養う。
- (2) 実社会との積極的な関わりを通して、高い倫理観と豊かな人間性、感謝の心を養う。
- (3) 自ら課題を発見し、成長し続ける姿勢、人々の負託に応え、国家・地域社会に貢献する志を養う。  
以上をもって、公務の具体的遂行を担う人材を育成する。

### 2. 公務員専攻科

- (1) 幅広い教養に基づく広い視野、柔軟な発想を養う。
- (2) 高い倫理観と豊かな人間性、感謝の心を養う。
- (3) 自ら課題を発見し、成長し続ける姿勢、人々の負託に応え、国家・地域社会に貢献する志を養う。  
以上をもって、公務の具体的遂行を担う人材を育成する。

### 3. 中上級専攻科

- (1) 幅広く専門的な教養に基づく広い視野、柔軟な発想を養う。
- (2) 高い倫理観と豊かな人間性、感謝の心を養う。
- (3) 自ら課題を発見し、成長し続ける姿勢、人々の負託に応え、国家・地域社会に貢献する志を養う。  
以上をもって、公務の中枢を担う人材を育成する。

### 4. 中上級教養科

- (1) 幅広い教養に基づく広い視野、柔軟な発想を養う。
- (2) 高い倫理観と豊かな人間性、感謝の心を養う。
- (3) 自ら課題を発見し、成長し続ける姿勢、人々の負託に応え、国家・地域社会に貢献する志を養う。  
以上をもって、公務の中枢を担う人材を育成する。

## Ⅱ 重点項目

### 1. 重点項目

- (1) 教育の質向上、個々の教員の教育力向上
  - ① 授業研究会（科目研究会）および人物試験研究会による分析・検討・研究
  - ② 授業のコンテンツ化、教育のDX化
  - ③ 対応可能科目・スキルの拡充と質向上、教職員の自己研鑽・自己啓発・自己投資促進
- (2) 学生の進路実現・進路確保促進
  - ① 公務員・準公務員受験先開拓
  - ② 民間就職先開拓及び、民間就職指導の充実化
- (3) 退学者低減・卒業率向上

### 2. 取組み状況

- (1) 教育の質向上、個々の教員の教育力向上
  - ① 麻生公務員専門学校福岡校・北九州校の横断で、教務力向上・教材開発プロジェクトを立ち上げ、科目部会を設置し、リスタートを図った。以前より活動は活発化したものの、現状では教材開発活動の占める割合が大きい。人物試験研究会は以前から活動を継続しているが、コロナ禍で回数・頻度は限られた。
  - ② オンライン授業を継続・推進する必要に伴い、授業のコンテンツ化を進めている。また、教育のDX化の一環として進められている授業コンテンツ化およびLMS開発プロジェクトに公務員分野として参画し、コンテンツ開発を進行中である。
  - ③ 対応可能科目・スキルの拡充と質向上については、前述の教務力向上・教材開発プロジェクト、科目部会にて進めることとなった。また、昨年度に引き続き、コロナ禍において、自己研鑽・自己啓発・自己投資への取り組みは全体として不十分であった。
- (2) 学生の進路実現・進路確保促進
  - ① 引き続き麻生公務員専門学校北九州校とも連携し、受験情報の積極的収集、オンラインでの情報共有・発信を継続している。
  - ② 民間就職先開拓及び、民間就職指導の充実化については、引き続き就職支援部門との連携を強め、迅速・的確な指導の実現を日々図っている。
- (3) 退学者低減・卒業率向上

昨年度に引き続き、出席率低下や退学懸念等についての迅速な情報共有を図り、担任以外の教職員も含めた複数チャンネルで対象学生・保護者へのアプローチを行うことを継続している。併せて、学生のモチベーション向上・維持に向けての取り組みも積極的に行っている。

### 3. 総括（成果と課題）

#### （1）教育の質向上、個々の教員の教育力向上

- ① 従来から比較的安定的に活動できていた人物試験研究会に加え、科目部会の活動が本格化・活発化した。特にこれが麻生公務員専門学校福岡校・北九州校の横断プロジェクトとして動き始めたことは確かな成果である。しかし、教育の質向上、教育力向上への意識・取り組みの程度は、教職員によってバラつきが否めず、この点が課題である。
- ② 対外にも活用できるコンテンツの数が増加した。また、新たなデジタルツールを活用する等、オンライン授業のスキル・質を大幅に向上させた教員が複数出てきている。しかし、オンライン授業スキルや、コンテンツの質は教員ごとに差が大きい。また、必ずしもモチベーションの高くない学生に、いかにオンラインコンテンツを活用させるかという課題がある。
- ③ コロナ禍において、昨年度に引き続き慌ただしい不安定な学校運営、学科学年運営になってしまったことは否めず、日々の運営と学生への教育提供、学生の進路確保に注力せざるを得なかった。その結果、教職員に、自己研鑽・自己啓発・自己投資のための時間的・精神的余裕を提供できなかったことが、学校として大きな課題であると考えている。学校において教職員の資質向上は、学校としての価値向上につながる大切な取り組みであるだけに、機会を儲け、教職員間のバラつき・差のある自己研鑽への取り組みを、次年度改善することが必要と認識している。

#### （2）学生の進路実現・進路確保促進

- ① 積極的な受験情報収集・発信には務めたものの、学生・保護者の地元重視傾向、職種選別傾向がますます強まる中で、その情報を具体的な受験指導に十分に生かしきれたとは言えない。得た情報を効果的・説得的に学生・保護者に伝えていく、教員の受験指導スキル向上が必要である。
- ② 就職支援部門との密な連携により、相互理解が進んだ結果、かつてよりも公務員分野の実情に合わせた柔軟な民間就職指導が可能になった。

#### （3）退学者低減・卒業率向上

前述の通り、退学者低減・卒業率向上に向けた取り組み・工夫を精力的に行っているものの、必ずしもモチベーションが高くない学生の増加に加えて、コロナ禍により、日々対面で接していた状況と比べ、対面でのコミュニケーションの機会が減少し、教職員と学生との関わり、学生同士での関わりの希薄化が進んでいる。結果として退学者低減を十分に図れているとはいえない。

### Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

-----  
基準 1 教育理念、目的、育成人材像  
-----

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

法人の理念・学校の教育理念・各学科の教育目的および育成人材像については、教職員向けに教務室内に常設掲示を行い、いつでも確認が出来る状態を整えている。学生向けには、学生便覧に掲載し、各人にて確認が出来る状態を整えている。また、社会公表については、学校法人麻生塾ホームページ上に、情報公開項目として整え、周知を図っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

教職員と学生に対して、教職員朝礼・教職員会議・講師会・ホームルーム・学年集会等の会を用いて、法人の理念・学校の教育理念・各学科の教育目的および育成人材像の確認と共有を継続する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

運営方針は、法人の理念と学校の理念に基づいて策定している。事業計画は、運営方針に則って策定し、周知のため、教職員全体会を行い共有している。運営組織と意思決定システムについては、初級・中上級・学科・学年に分け、運営が最も行い易いように組織編成し迅速に判断を行なっている。教務会議を始めとした各種会議は、定例・非定例を柔軟に開催することにより、必要に応じた意思決定と情報共有の場として活用している。情報システム化については、学生に関する情報管理システムと業務処理に関するシステムが構築されており、管理された各種情報が学校運営に有効に活用されている。今年度は、コンプライアンス体制の強化に加え、人事制度・評価制度を教職員の納得性の高い制度に改定するための地盤固めとして、労働時間管理体制・雇用管理体制の再構築を行った。事務組織については、法人・福岡キャンパス共通事務組織、学校独自の事務組織とも十分に機能している。事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策として、事務としての意欲・資質向上を行うためのOJTを実施している。

【課題】

情報システム活用について、集約された学生情報と業務処理情報の整理が必要である。オンラインでの業務が進む環境下で、システムと業務(教務系内容と運営系内容)の連動を図る必要がある。また、人事に関しては、現行制度と社会情勢の間に乖離が見られる部分が出てきている。

【今後の取組み】

情報システム活用については、活用中各種ファイルの精査整理と機能向上を図ると共に、管理情報の最適化に取り組む。加えて、オンライン環境に対応できるよう、システム機能向上と活用力向上に取り組む。人事に関しては、2021年度で、新制度構築の基盤が出来上がってきたため、2022年度からは新しい人事制度・評価制度・給与制度の整理再構築を行っていく。また、事務職員の意欲・資質の向上を図るためのOJTを継続実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A



基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

教育理念および教育目標に基づくディプロマ・ポリシーとそれらに則り構成されたカリキュラム・ポリシーは、「学生便覧」にて明示し、学校構成員に周知した。また、アドミッション・ポリシーに表される本校が求める人材像の育成について、教育目標に沿った教育課程の充実化を図った。社会公表については、ホームページ上にて明示し、公表している。定期的検証については、教職員へのアンケートを実施している。

【課題】

カリキュラム・ポリシーの検証を目的とした仕組みを構築していく必要がある。また、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの明示は行っているが、定期的な検証により浸透させるための取組みについて改善の余地がある。オンライン授業実施においても対面授業実施時と同程度に教育目的に沿う人材育成を図る工夫が必要である。

【今後の取組み】

教職員に対しては、教職員朝礼、教務会議、教職員研修における周知と、アンケート実施など検証機会の実現を図る。特に非常勤職員には、年度当初の契約時に周知を図る。学生に対しては、オリエンテーション、ホームルーム時間を活用し、複数回に渡って周知を図る。社会公表は、ホームページの掲載を継続実施し周知を図る。また、保護者に対しては、説明会、保護者通信の機会を活用して周知を深める。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	A
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	A

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

公務員試験において、いずれの受験先においても共通して試験科目とされているものを、体系的・階層的に配置し、教育課程方針に基づく適切な教育内容を対面授業及びオンライン授業を併用し実施した。公務員リテラシーの授業では、国家・地域社会へ貢献する公務員の職業理解と、公務員としていかに自己実現を図るかという検討の機会を設けた他、教育課程編成委員からの提言を取り入れた授業の実施で、業界のニーズに応える、より実践的な職業教育の実現を目指した。また、公務員である卒業生から、業界に関する提言や後輩学生への助言があり、実際の職業理解を図った。キャリア教育においては、社会人基礎力向上を目的として、ビジネス実務や、コミュニケーションの手法を実践的に学ぶ授業を実施した。前年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、学内外での活動が制限されたが、可能な限り官公庁と連携した説明会や職場訪問を実施した。

【課題】

国家・地域社会の発展に寄与する人間力の醸成を推進するため、教育課程編成委員会外部委員からの提言を実際の授業に反映したカリキュラムの検討を重ねる必要がある。また、官公庁・自治体のニーズを把握する方法を追求し、正しい認識に基づく妥当な教育課程構築を検討したい。今年度、オンライン授業の増加に伴い、演習形態の授業が不足している感があり、この点も課題である。

【今後の取組み】

シラバスの最適化を図り、授業内容の充実を各科目で検討する。また、今年度の社会情勢によって中止した各種イベントや、断念した取り組みを再構築していく。特に、教科外活動や官公庁・自治体など外部機関の協力を得るものは関係再構築を図り、過去の手法に拘らず、この機に新たな形で職業実践専門課程の実現を検討する。また、以上のような公務員試験合格を目指した教育活動と、公務員としてふさわしい人材の育成とを、本校としての教育課程実施の両輪とする。そのために、今後も鋭意、各種教育活動の試行錯誤と取捨選択を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	A
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	A
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S

3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

授業評価の実施・評価体制は、前期と後期の2回、学生への授業アンケート・担任アンケートとして実施し、担当教員へフィードバックされる仕組みがある。オンライン授業においては、学生の意見を集約し、改善を図るなどした。オンライン授業では他教員の授業を見られる環境であったため、教員が互いに作成した授業コンテンツを比較でき、結果的に授業内容・授業方法の改善につながった。

【課題】

今年度も前年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業研究会の実施が困難であった。直接的に教員間で改善を図るための取り組みを講じたい。今年度発足した教科部会を土台として、授業力向上のため、教員間で相互に影響を与える取り組みや、非常勤講師との連携強化に向けた取り組みを維持、改善していく。

【今後の取り組み】

フィードバックされる授業評価内容は、各教員が個人として自己分析し、授業力向上を試みる材料とするに留まらず、組織として教務力を底上げする材料としたい。特に高評価の教員の手法共有を試みたい。単年度の結果だけでなく、複数年に及ぶ授業評価の推移を分析できるよう、授業評価を管理する仕組みの整備を図る。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	A

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、学生便覧を用いて新年度開始後のオリエンテーション等の機会を通じて説明がなされている。成績評価・単位認定は、日常の学習状況と定期試験等を総合評価し、規程に基づいて客観的に決定している。成績評価基準はシラバスにおいて周知されており、本校ホームページ上でも明示している。進級・卒業判定については、単位取得状況と出席率及び生活状況を基準として規程に基づき客観的に決定している。オンライン授業における成績評価・単位認定についても、所轄庁および法人の基準に則り、適正に実施されている。

【課題】

成績評価について、引き続き、「成績評価に関する規程」及び「進級・卒業に関する規程」の各規定を適用し、適切に実施していく。時間割や授業形態の変更がなされても、成績評価に関する基本的項目を保持したまま運営する工夫を今後も続ける。

【今後の取組み】

シラバス編成会議等の検討会を経て、成績評価基準について明記したシラバスと、進級・卒業判定要件について記載された学生便覧を用いて、成績評価と単位認定の基準が明確に規定されていることを学生に周知徹底する。成績評価や単位認定に関わる出席管理や定期試験は引き続き厳格かつ適正に実施する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

専修学校設置基準その他法令を遵守しており、教員要件・定員に対する法令上必要な人員を適切に配置している。専門性と経験値を備えた教授能力を有する教員が確保できており、質の高い非常勤教員の援助を受けながら教員組織体制を整備している。中上級、公務員総合科2年、公務員総合科1年、公務員専攻科、事務局の5つのセクションによって組織が構成されており、それぞれのセクションで教育内容を向上させ学校運営の円滑化を図っている。また、各セクションは相互に協力し、活発な意見交換や密な情報共有が行われ、問題が生じた際には、組織として対応することが常態である。教員の専門性や指導力維持のため、公務員試験の解答解説や模擬試験を常勤教員が作成しており、出題傾向の分析と類似問題の作成によって専門性を高めている。今年度は科目部会が立ち上がり、姉妹校である北九州校との連携も図れている。

【課題】

分野ごとの教員体制として設置された科目部会については、部会で担う業務内容の検討・決定などの整備が課題である科目部会は、教材開発に留まらず、指導力向上のための授業研究会実施などにより、FD活動を推進する体制としたい。また、非常勤講師の拡充と、常勤と非常勤の連携強化も引き続き課題である。

【今後の取り組み】

新任教員に対しては、チューター教員を付し、日常的に資質向上のためのサポートを行う。教員の資質向上に関しては、授業研究会の実施と参加促進を進めつつ、多分野にわたる各種研修会に教員が参加する機会を設ける。特に、外部講師を招聘して見識を広げる試みや、官公庁・自治体の職員と意見交換するなどの研修を実施したい。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	A
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、通常の指導が困難な状況であったが、登校自粛期間も担任を中心に学生へ細かな指示を出し、遠隔授業に切り替えた状況下での適切なオンライン授業、自宅学習可能な教材の作成と送付、学生のやる気を引き出す取り組み等を継続的に行った。また、公務員試験結果の分析も、受験先別に傾向分析と情報共有がなされ、次年度以降に向け有用な情報をまとめている。退学率の低減の取り組みについて、退学懸念の学生本人、保護者、担任教員の三者に加え、学年教員、校長代行、校長代行補佐が情報を共有しながら対応した。登校自粛期間が長期に渡り、学生との直接的なコミュニケーションが取りづらい中においても、個々人の状況に応じた時機を逸さない指導を実施している。

【課題】

公務員試験合格率は、今年度初期の目標を多少下回った。次年度以降、合格実績の数値回復を目指したい。退学率の結果を客観的に評価するシステムに不足があり、退学抑止の好事例も含め、検証と分析、その共有を図りたい。

【今後の取り組み】

受験情報と結果分析を強化し、数値から見える有効な進路指導について検討する。教員が個人で把握している情報を全体に共有する機会を増やし、指導経験年数による学生指導の差が少なくなるよう取り計らう。また、地元自治体や九州地区官公庁への採用内定者を増やすことを目的とした活動も推進する。退学懸念学生については、早期に、複数の教員で様々な視点から助言し、対応していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取り組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	A
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取り組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	評価除外
4-1-4	退学率の低減の取り組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S

4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	評価除外
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	評価除外

-----  
基準 5 学生支援  
-----

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生に対しての修学支援は、福岡キャンパスとしての実施と学校実施によって適切に運営されている。学生の進路支援は、担任、学年教員、就職グループ職員と、それぞれ連携を図りながら適切に支援を実施している。学生相談に関する体制は、担任を中心として、Microsoft Teams のチャット機能活用などにより他の教職員にも相談できる体制を整えている。課外活動支援においては、公務員総合科1年でパソコン、手話、ボランティアなどのサークルが立ち上がり、非常勤講師と連携して実施した。学生の経済的側面に対する支援は、各種の公的支援情報を遅滞なく伝え、学生課および事務局が窓口として対応している。学生の健康管理・生活支援は、健康診断の他、感染症対策として入口検温や消毒液を複数箇所設置し、日常的に感染予防策を呼びかけている。

【課題】

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、課外活動のうち柔道やサッカー、バスケットボールなどスポーツ活動については実施を見送った。社会情勢を見通しながら、実施可能な課外活動は再開を検討する。また、課外活動については保護者との連携、活動受け入れ先との連携、学校内共有、危機管理担当教職員の明確化、さらに対応マニュアル策定など体制整備が課題である。

【今後の取組み】

課外活動再開に向けた準備を進め、学生が多種多様な経験を積む機会を設けつつ、課外活動の危機管理体制を確立する。また、学生が教員の他に、先輩学生や卒業生に進路相談できる仕組みを充実させていきたい。キャリア支援体制の確立について、担任が公務員試験情報を正確に把握するための入手・把握システムを構築する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S

5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

=====  
基準 6 教育環境  
=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

教育施設・設備について、点検・整備を行い教育活動に支障のないように保守修繕と改良を実施している。教育機材・備品についても、既存物の点検・整備を行い、使用について問題無いよう整備を適宜実施している。また、オンライン授業配信に対応するために、適宜、必要な授業関連機器(i pad・ペンタブレット・三脚等)の整備を行った。図書については、中央図書館が設置されており、十分に機能している。

【課題】

オンライン授業拡充のための各種機材導入促進が必要である。

【今後の取組み】

施設・設備の整備に関する、維持・管理、安全・衛生の確保と、オンライン授業拡充のための設備予算計化による環境の拡充を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S



中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

教育上の必要性に対応した施設・設備を、整備・維持・管理し、安全で衛生的な環境を確保している。環境の確保については、専門会社監修による長期・中期・短期に分けた維持活動を実施している。日常管理についても定期点検と自主点検を行い、不備箇所の早急な改善を行っている。また、安全管理についての各種マニュアルは、適宜最新版への更新を行っている。避難訓練については、個別に学科・学年別で避難経路を確認する形で実施している。

【課題】

新型コロナウイルス感染症下において、学校を取り巻く環境が刻々と変わる中での教育環境の維持が課題である。

【今後の取組み】

施設・設備の整備・維持・管理の継続と安全管理マニュアル整備の継続。また、安全管理を基本に置いた、新型コロナウイルス感染症に対応した学校運営を実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	評価除外
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッション・ポリシーについては、学校独自に策定している。また、内容周知については以下の方法で実施している。①学校構成員(教職員)：内容記載した印刷物を用いて説明。②学校構成員(入学生・在学生)：学生便覧及び内容記載された印刷物を用いて説明。④社会公表：法人ホームページ上の本校情報公開ページに表示し常時閲覧が可能な状態とする。教育成果については、学校案内やホームページに公務員試験合格情報を掲載し学校状況を公表している。学生募集・入学者選抜については、アドミッションポリシーを募集要項にて公表し、適正に募集活動を実施している。昨年度から導入したオンラインによる選考方法の追記や選考方法についても、募集要項に明記し、適正に選考基準を定め入学者選抜を行っている。学生納付金については、法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定がなされている。

【課題】

アドミッション・ポリシーについて、入学者・入学検討者に対して、理解促進を図る工夫が引き続き必要である。

【今後の取組み】

アドミッション・ポリシーの周知と、教育成果についての正しい情報提供の継続を実施する。引き続き、学生納付金等の妥当性を確認していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。予算編成に関しては、過年度実績と次年度計画を検討し編成している。執行に関しては適切性を守るため、申請・精算時、請求書受取時、及び経理よりの月次報告時に確認を行い適切な運用を実施している。監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。情報の公開については、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

予算残高管理と予算執行の手順を適切に行うことを継続する。今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取組みを継続的に行っていく。その取組みにより重要な差異や変動を把握し、対応策の検討、その実施を積み重ね、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

法令と専修学校設置基準等を遵守し適正な学校運営を行うことに努めている。また、関連法令等各種法令が求める業務について、新設・改定・変更等に適宜対応し適切に業務遂行している。

特になし。

【今後の取組み】

各種法令・学校設置基準等に基づく各種制度について、情報共有と確認の実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	A

基準10 内部質保証

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し要改善点項目の抽出を実施した。要改善項目については改善活動を行い、改善活動継続が必要な項目は、年度を超えての活動予定としている。学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価委員会で頂く意見を、全教職員で共有し学校運営活動に反映させている。また、自己点検・評価及び学校関係者評価の結果はホームページを通じて公表され、社会に対する説明責任を果たしている。

【課題】

委員会より頂いた提言を加味した各種学校行事計画等の実施において、新型コロナウイルス感染症下により、延期・縮小・中止等の影響が発生することへの対応が課題である。

【今後の取組み】

各種の計画について、学校運営の基本を踏まえた実施。また、不測の事態発生時について、各種調整等を行うことで、計画実施そのものの中止を最小限にとどめる運営を実施する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	S
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

公共的な機関として、社会貢献・地域貢献に関しては、高等学校を中心に出張型・来校型とも教員派遣を行い対応している。しかしながら、本年度に関しても、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく制限がかかり、日程の調整・実施方法変更等が発生した。高校現役公務員受験生向け講座に関しては、運営方式をオンライン型(一部来校型で実施)に切り替え継続実施した。学生ボランティア活動に関しても、新型コロナウイルス感染症の影響で、学生ボランティアサークル活動と自主的活動がままならない状況が続く状況であった。

【課題】

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響下に於いて、実現可能な高等学校訪問活動とボランティア活動の実施が課題である。

【今後の取組み】

新型コロナウイルス感染症の影響下に於いて、実現可能な高等学校支援活動とボランティア活動の模索と実施を進めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

=====

基準 1 2 国際交流

=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

引き続き海外留学の制限が継続しているため、国内で海外を体感できるプログラム等の情報を適宜提供している。尚 留学生受け入れは行っていない。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

学生に対しての、海外留学情報とそれに準ずる情報の継続提供を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	評価除外
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	評価除外
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S